

なめがた市民 100 人委員会「第1班」議事概要

議論した基本目標	市民が安心できる医療体制を維持する
コーディネーター	石井聡(神奈川県逗子市)
審議員	石渡秀朗(構想日本)
説明担当者(自治体)	健康増進課、介護福祉課
日時	2021年7月17日(土)14時55分から15時50分
その他	参加者数 会場4名 オンライン:0名 欠席者数16名

総括

コーディネーター総括

- 今回がアイデアをいただく最後の機会です。今後、これまでの議論をまとめ総合戦略改訂版の素案作り作業を進める。そのためにも改善提案シートの提出をお願いします。

協議の流れ(摘録)

◀前回の振り返り▶

- コ) 救急医療が話のスタートだったが、医療と介護サービスの連携に話が広がってきた。
- コ) 医師、看護師の確保については、金の問題ではない。地域の魅力を発信していくことが大事だとの意見があった。
- コ) 病院は縮小だが、訪問看護ステーションなど別の機能を取り入れるなど工夫もしている。今後もそれを増やしていく方向は確認した。

◀今回の議論▶

- コ) 訪問看護、訪問リハビリテーションなどを広げる目標は立てられるか。
- 市) 訪問看護ステーションは活躍してきた。在宅見取りもできるようになってきた。でもそれを知らない人たちも多い。啓発不足を思い知った。
- コ) 訪問看護ステーションのキャパを知りたい。
- 市) 実績に基づき規模を決めるので、キャパシティを説明することは難しい。実績に基づき規模を増やしてきた。
- 市) 10年前に必要なサービスが何か考えられるようにするにはどうするか、宿題をいただいた。
- 市) 訪問看護ステーション、介護予防教室などについて多くの人に知ってもらいたいが、なかなか反応が鈍い。
- 市) 広報のため「もしものときどうしますか」というタイトルでシンポジウムを開いた。エンディングノートについて若い人(息子、娘)に関心をもってほしい。
- 委) 跡取り問題が行方の大きな問題。長男が跡を継ぐ文化があるが、なかなか若い人が行方に残らない。
- 委) 訪問看護ステーションの活動や介護予防教室など、市報での広報をみんな待っている。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

コ)エンディングノートの広報について、具体的な事例の紹介はインパクトがあるのではない
か。

市)看取りの例が年20例ある。看護師にインタビューは可能で、その例を紹介することができる。
る。

市)デイサービスは民間の施設が13か所あり、充実している。

委)医療と介護の需要を予測し、必要な施設の計画をすべきではないか。なめがた地域医療
センターの施設利用を考えるべきではないか。なめがた地域医療センター地区を医療と
介護の拠点にすべきではないか。

市)介護予防の教室を開くなど、介護給付費の抑制につながるサービスを考えたい。ただ、な
めがた地域医療センターの場所を使うことには施設管理者との調整などハードルがある。

コ)交通弱者に対するケアと医療体制の確保は切り離せないという議論もあった。この点は2
班で積極的な議論をしているが、この班での議論もしていい。

市)ワクチン接種で、コミュニティバスなどを600人以上利用した。公共交通については需要
が多く、助成金などを考えていくべきだと考えている。

市)救急搬送時間60分の短縮については難問。すべての救急車に救急救命士を載せるなど
行っているが、消防署との連携が不可欠。救急車の台数を増やすのか、救急救命士の充
実など考えていく。

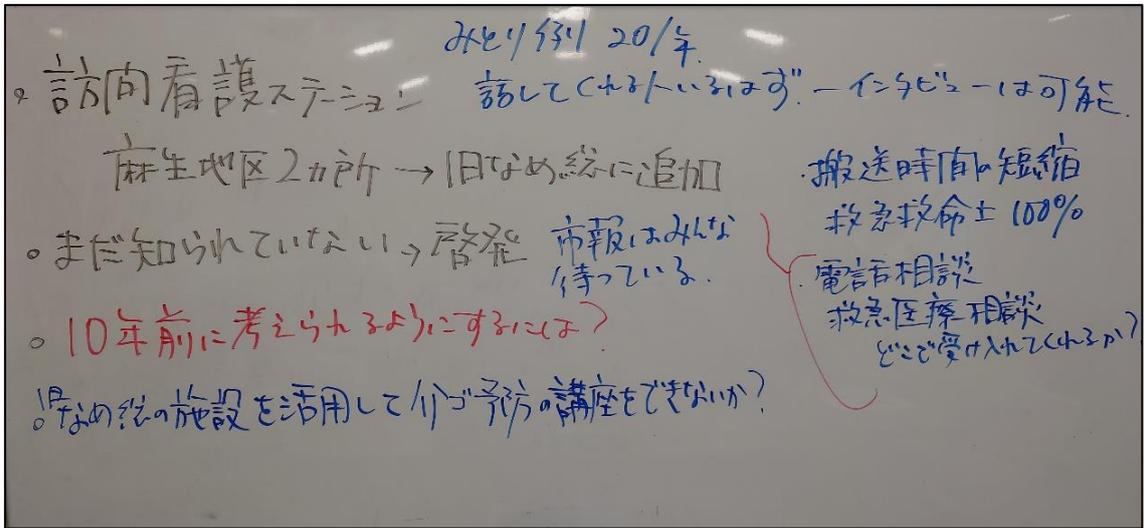
委)119番に電話した人のすべてを救急車に乗せる必要があるのか、検討が必要ではないか。

コ)峻別は誰がやるのか、難しい問題である。

委)「いばらき子ども救急電話相談」、「医療相談」などの電話相談を複数回使ったことがある。
場合によっては救急車よりも早く診療を受けられる。すぐに動くことが親にとっては安
心である。少し遠い病院でも、受け入れる病院があればすぐに動くことが大事。救急搬送
も減ると思われる。相談窓口を周知徹底することが大切。市報よりメルマガや定期健診
時の待ち時間にお知らせするなど丁寧な対応を考えてほしい。

市)一人暮らし高齢者が救急電話を利用するケースがあるが、消防と地域包括との連携で、消
防署から地域包括に連絡が回ってくることも多くなっている。連携が大事だと思う。

ホワイトボードの写真(コーディネーターが議論をまとめた資料含む)



委) : 委員、コ) : コーディネーター、審) : 審議員、市) : 説明担当者